

2019 年度フォローアップ調査の実施について

(経団連循環型社会形成自主行動計画)

1. 目標

- (1) 産業廃棄物最終処分量削減目標
2020 年度において、2000 年度実績(0.151 万トン)より 95%削減する
- (2) 業種別独自目標
産業廃棄物の再資源化率を 2020 年度において 99%以上とし、限りなく 100%に近づくよう努力する
- (3) 業種別プラスチック関連目標
産業廃棄物（プラスチック含む）の再資源化率を 2020 年度において 99%以上とし、限りなく 100%に近づくよう努力する

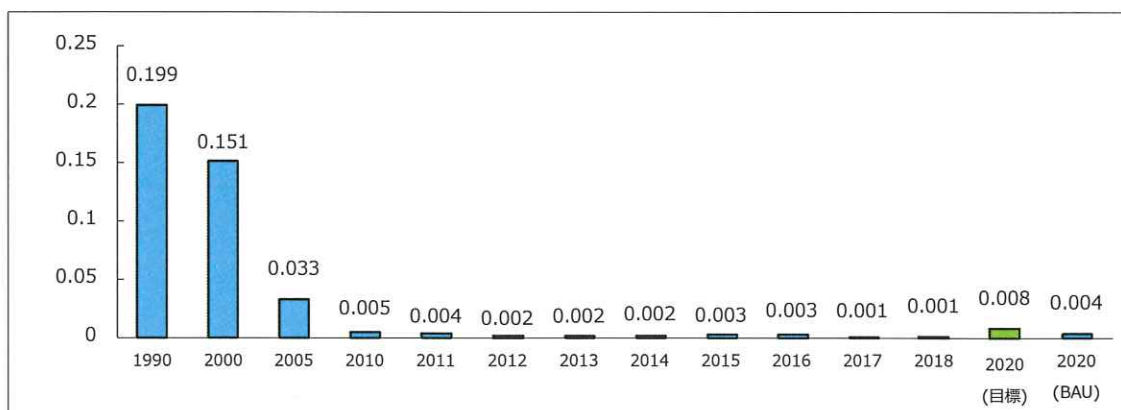
経団連は、循環型社会の形成に向けて、産業界の主体的な取組みを推進するため、「循環型社会形成自主行動計画」を策定し、各業種の参加を得て実行しています。当自主行動計画は、限りある資源を効率的に利用する観点から資源循環の質の向上に資する業種別独自目標の設定の充実に努める方針としています。鉄車工もこの方針に添い当自主行動計画に参画し、上記のような最終処分量の削減目標を掲げています。

また、近年関心が高まっている、海洋プラスチック問題の解決やプラスチック資源循環を推進するため、2018年度から当自主行動計画に「業種別プラスチック関連目標」を追加することになったので、鉄車工も上記の独自目標を定め、努力しているところです。

2. 産業廃棄物最終処分量の削減状況

(1) 産業廃棄物最終処分量の実績

(単位：万トン)



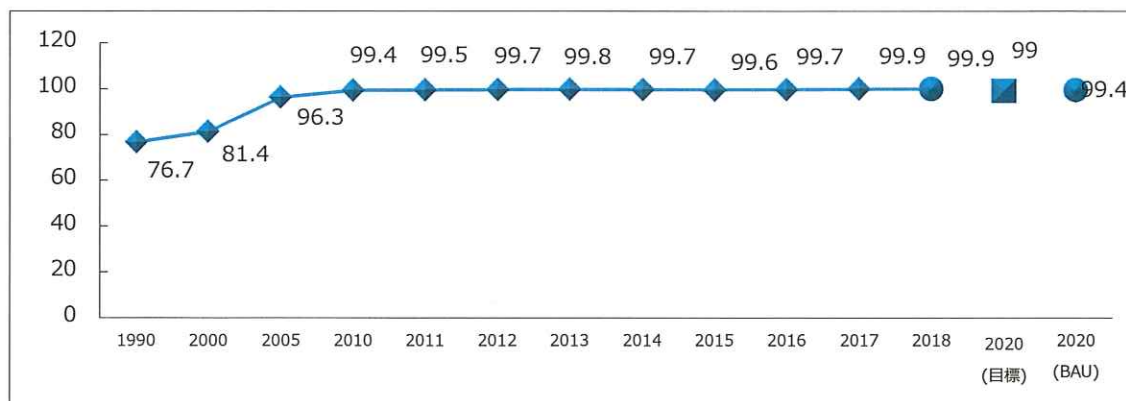
2018 年度は、調査対象会社のゼロエミッション達成に向け、産廃処分委託業者選定時に 100%リサイクルできることを条件とすることや、梱包類の簡易化をメーカ及び業者に依頼するとともに、廃プラスチック等の適正分別活動及び製造プロセスにおける廃棄物の抑制による再資源化・有価物化の推進を

図るなどの取組みにより、産業廃棄物最終処分量は、約7トンとなり、削減目標を達成しました。

3. 業種別独自目標

(1) 再資源化率の状況 (数値目標)

(単位：%)



注) BAU：特段の対策のない自然体ケース (Business as usual)

2018年度は、調査対象会社の産廃処分業者選定時に100%リサイクル化を契約条件にすることや搬入部品の梱包材、荷姿の見直し、梱包材の専用パレット(通い箱)化及び廃棄物分別ルールの周知徹底と教育によるゴミの品質の向上を図るなどの取組みを行いました。

その結果、再資源化率は99.9%となり、業種別独自目標を達成しました。